

自己評価報告書

令和5年度 阪本小学校 自己評価報告書			
学校(園)名：中央区立阪本小学校 所在地：中央区日本橋兜町15-18			
校長名：小川 優			
児童数 200名	学級数 8	教員数 21名	職員数 43名

1 重点目標の達成状況及び取組状況

重点目標1 「自ら考え共に学ぶ子どもの育成」

<評価項目> 学び合いや体験を重視した課題解決型学習、個に応じた指導、ICT・デジタルシチズンシップ教育の実施

重点目標2 「温かい人間関係を育む活動の推進」

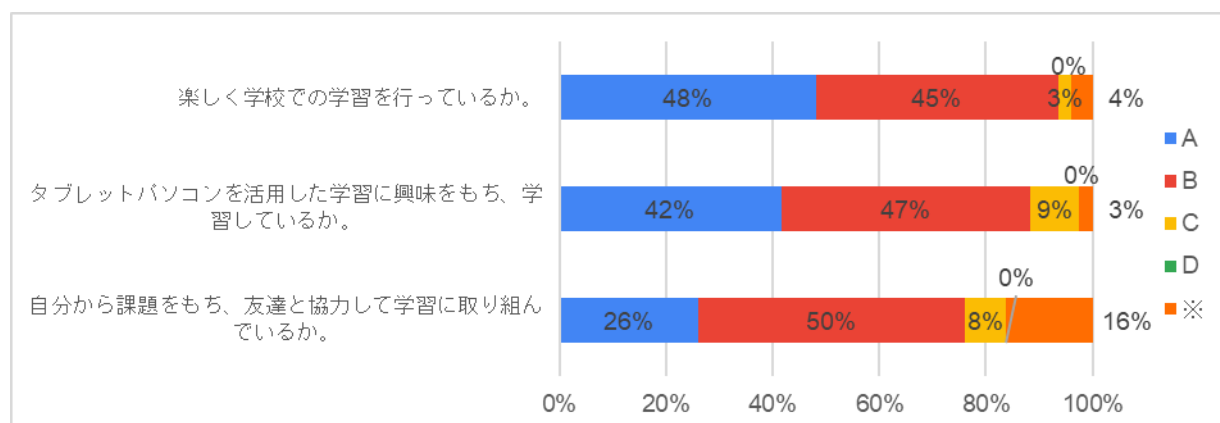
<評価項目> 縦割り活動を中心とした子どもたちの相互のかかわりや元気よい挨拶や返事

重点目標3 「地域の特色を生かした阪本ならではの教育活動を進める」

<評価項目> 日本の伝統文化理解教育、金融教育・キャリア教育、オリンピック・パラリンピック教育の推進

【評価結果グラフ】 A：十分達成している B：達成している E：よくわからない
C：改善を要する D：緊急に改善を要する

<重点目標1>



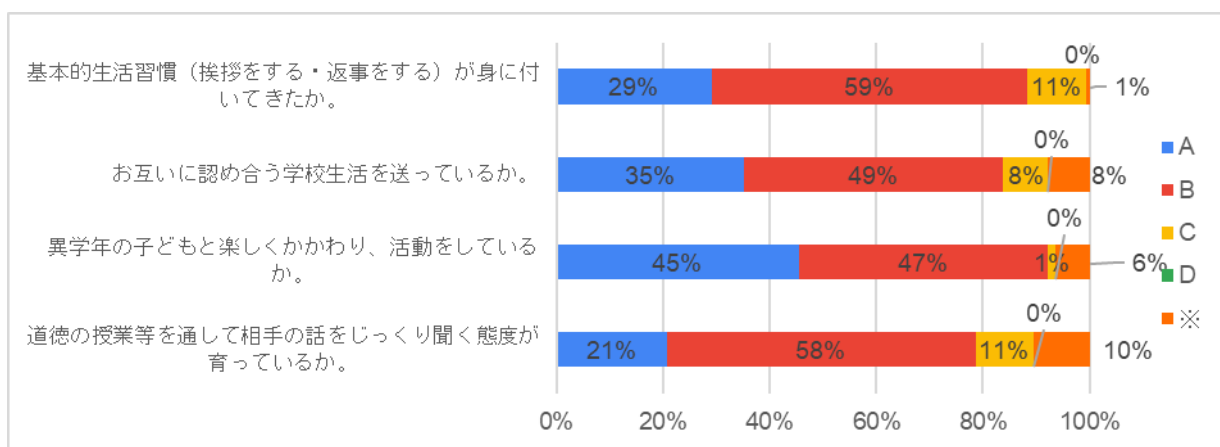
「楽しく学校での学習を行っているか」では、A・Bを合わせた評価が94%（昨年度は92%）であった。児童にとって楽しい学校生活を目指し、ここは100%にしたい。

「タブレットパソコンを活用した学習に興味をもち、学習しているか」では、A・Bを合わせた評価が昨年とほぼ同じで88%であり、A評価が4%増えた。本校はこの7年間、ICT教育・プログラミング教育（令和3年度まで）、デジタルシチズンシップ教育（令和5年度から）を研究授業と日常的なタブレットPC活用を中心に強力に推進し続けており、児童のICT機器の活用意欲は高い。一人一台のタブレットPCを効果的に活用し、児童の情報活用能力、思考力、判断力、表現力の向上を目指している。今後も、校内研究を通して、各教科でタブレットPCを効果的、集中的に活用する場面をさらに整理し、一人一台のタブレットPCを最大限に活用していきたい。その場面を学校公開等で積極的に見ていただき、デジタルシチズンシップ教育やタブレットPCの活用の様子を学年通り等でも随時、保護者の皆様にお知らせしていきたいと考えている。

「自分から課題をもち、学習しているか」では、A・Bを合わせた評価が76%（昨年は74%）であった。「よくわからない」が16%、C評価を8%であった。児童が学習に意欲・関心をもち、自ら課題設定を行い、切実感をもって自主的に学習課題に取り組めるよう、「主体的で、対話的な

深い学び」の実現を目指して、より一層導入教材の工夫と、意欲を持続させる単元構成の工夫の授業改善を図っていききたい。

<重点目標2>



「基本的な生活習慣（挨拶をする・返事をする）が身に付いてきたか」では、A・B評価が88%に増加し（昨年度は83%）C評価が11%（昨年度は14%）に減少した。阪本小の最大の課題としてとらえていたが、改善が見られた。日常の挨拶の様子・実際もアンケートの結果と同様に改善の手応えが感じられる。

学校では、相手の目を見ること、自分から挨拶すること、立ち止まって挨拶することを生活指導上の重点と決め、年間を通して全教職員で指導してきた。今後も、挨拶の基本を大事にしながら、学校のお客様に対して、あるいは場面や状況に応じた挨拶ができるよう粘り強く指導を続けていきたい。挨拶の響き渡る阪本小学校を目指したい。

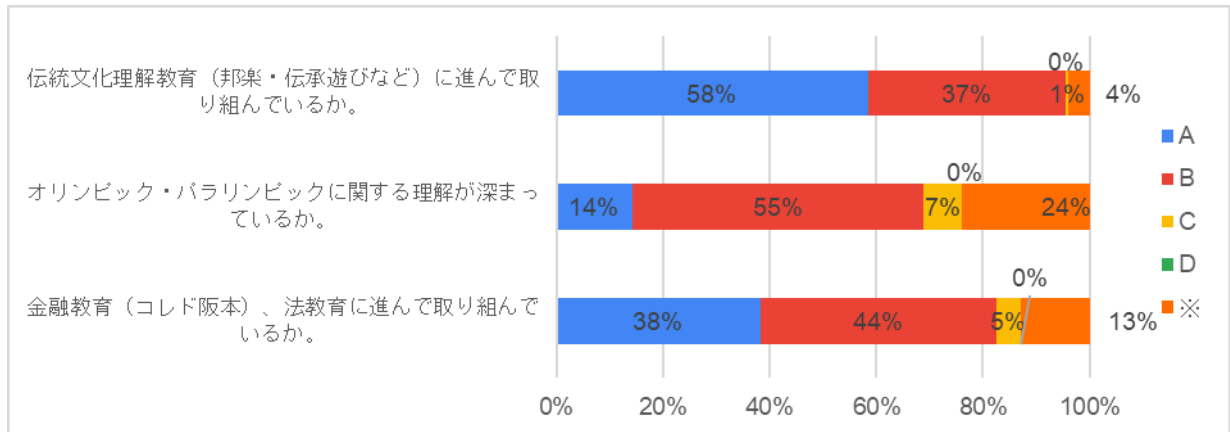
「お互いに認め合う学校生活を送っているか」では、A・B評価が84%で昨年の82%から少し改善した。しかし、C評価がまだ8%みられる。自分を大切にすることはもちろんであるが、友達によさに気づき、相手を尊重する教育を引き続き行なっていきたい。

「異学年の子どもと楽しくかかわり、活動しているか」は、A・B評価が92%と高くなっている。（昨年度91%）。新型コロナウイルス感染症も5類となり、従来の縦割り班清掃が再開され、児童の交流機会も増えた。今後は縦割り班の交流給食も再開していきたい。自他をのよさを認め合い尊重し合うことは人権教育の基本であり、本校の児童に人を思う温かい心を育てることは重要な教育の目標である。児童に思いやりの心と友達との信頼感、協力の大切さを体験的に学び取れるよう、引き続き、お互いのよさを認め合う活動を増やし人権尊重教育、豊かな心の育成を進めていきたい。

「道徳の授業等を通して相手の話をじっくり聞く態度が育っているか」では、A・B評価が約79%（昨年度78%）C評価が11%、「わからない」が10%であった。道徳の授業を見ていただく機会が少なかったことも背景にあると思われる。道徳的心情は、毎週の道徳の授業、道徳授業地区公開講座はもちろん、全ての教育活動を通して育てていきたい。今後もより一層、「考え、議論する道徳」を目指し、問題解決的な学習、体験的な学習を取り入れた授業展開を図り、児童に相手の話をよく聞く態度と思いやりの心を育てていきたい。なお、今年度の道徳授業地区公開講座

は、令和6年1月20日（土）に実施し、保護者の皆様にご参観いただいた。

<重点目標3>



「伝統文化理解教室（邦楽、伝統遊びなど）に進んで取り組んでいるか」では、A・B評価が95%と高く（A評価だけで58%）、昨年度からさらに改善が見られた。

昨年12月の学校公開では、150周年記念式典での児童の演目をできるだけ再現し、保護者の皆様に見ていただいた。

邦楽教育は、本校の特色ある教育の一つであり、非常に重要な教育活動である。今年度は従来の年間を通しての外部講師の招致と邦楽教室が実施できた。学校公開・伝統文化理解教室実施直後の保護者アンケートでも、取組への高い評価を多くいただくことができた。学校としては、活動のねらいや内容の質を落とすことなく改善を重ね、本校の伝統であり特色ある教育活動である邦楽教育（日本舞踊を含めて）に引き続き力を入れて取り組み続けたい。今後の児童数増加を踏まえて数年後の邦楽の表現方法についても検討して行きたい。

「オリンピック・パラリンピックに関する理解が深まっているか」では、A・B評価が約69%（昨年度74%）、「よくわからない」が24%と、評価が下がってしまった。オリンピック・パラリンピック教育には、毎年取り組んできたが、東京オリンピックも終了しており、全校的な取組を十分に行えなかった実態がある。また、昨年12月に実施したボッチャのトップアスリートを招いての実技教室も3・5・6年生対象で限定的で、保護者への情報提供も不十分であった。今後はオリンピック・パラリンピックのレガシー、精神を児童に伝え続けて、学校の重点目標からは外していきたいと考えている。

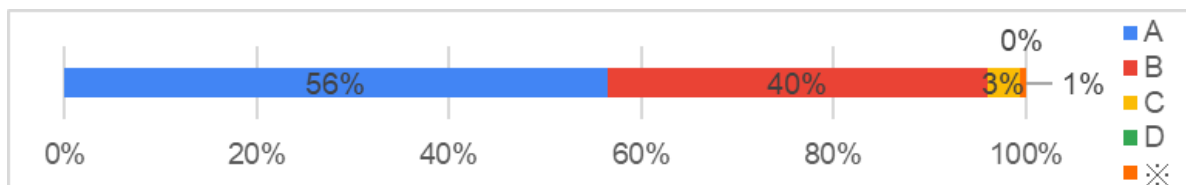
「金融教育（コレド阪本）、法教育に進んで取り組んでいるか」では、A・B評価が82%で（昨年度89%）「よくわからない」が13%と、であった。法教育では、4～6年生に東京弁護士会の講師を招き、民事、刑事の模擬裁判の体験学習を通し、法の理解を深めていたが、その法教育の情報提供が不十分だったとも思われる。

昨年7月に実施したコレド阪本では、従来の学年をまたがる縦割り班で会社組織を作り、お店を出して取り組んだ。外部講師を周知しての金融教室や会計教室も実施した。発表当日は、学校公開ができ、その一環を保護者の皆様にご覧いただくこともできた。児童は大変意欲的、主体的に自分たちが作り上げる活動として参加し、楽しみながら充実した時間をもつことができた。今後も本校の特色ある教育として、金融教育の学習内容をさらに精選・整理して改善を加え、児童数増加も見

据えて実施していきたいと考えている。

2 重点目標以外の自己評価における達成状況及び達成のための取組状況

<学校は行事や学校公開、学校だより、学年だよりなどを通して児童の学習の様子や生活がわかるようにしている。>



昨年度の課題であった学校からの情報発信については、A・B評価では91%でC評価も少し改善している。より積極的に学校の情報を提供すると同時に、今後もよりわかりやすい表記と適切な内容に注意を払い、文章での連絡をしていきたい。また、学校ホームページへの掲載、クラスルームへの掲載等の棲み分けをさらに進め、紙ベースでの配付も行うが、紙の配付は減らしていく方向で進めていきたい。

3 今後の改善方策

タブレットPC等の学習環境の活用については、今後も一人一台のタブレットPCの学習環境を日常的、効果的に最大限活用し、児童の情報活用能力を引き続き育成していきたい。次年度もデジタルシブシブ教育に取り組み、2学期には研究発表も行う予定となっている。学校だより、学年だより等でその内容的な情報提供を進めていくので、ご家庭での協力をお願いしたい。また、パソコンの検索では得られない貴重で正確な情報収集場所として、図書室の機能の充実を追究し、ICT機器と図書室のバランスのよい効率的な活用を図っていきたい。